

第3学年 道徳学習指導案

日時 平成16年11月10日(水)、5校時

対象 3年7組(男子19名、女子16名、計35名)

授業者 箱石 順一郎

1 主題 人生を切り開く 内容項目1-(4)理想の実現

(理想の実現のために努力する意欲を培う。)

2 資料 道はいつもひらかれている

(出典：道徳副読本「自分をのぼす3年」暁教育図書より抜粋)

3 主題について

(1) 価値について

項目1-(4)の内容は、「真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていくようにする。」ことをねらいとしている。

人間である限り、自らの生涯をかけるに足る、悔いのない人生を願うのは当然である。特に中学生においては、人間として、自らが納得できる普遍的な生き方を求めて行こうとする気持ちが高まる時期でもある。

しかしながら、生徒は現実の様々な問題に直面し、安易な妥協や挫折から、人生のむなしさを感じてしまう様子も見られる。

無気力、無目的と言われる現在の生徒に、自らの人生に焦点を当て、改めて自分を深く見つめ直し、人間としての誇りの持てる創造的な人生を切り開いていこうとする意欲を培うことは重要な課題である。

一人一人の生徒が自ら納得できる真理や真実を求め、自己の生き方を探求し、自分の人生をかけて実現すべき価値を見つけていく意欲の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 価値にかかわる生徒の実態

中学校の時期は、心身ともに大きく成長する時期であり、バランスが崩れいろいろなことを考えたり悩んだりすることが増える時期でもある。さらに、理想と現実との矛盾に気づいたり、人間として誰もが持つ弱さや醜さについて悩みを持つようになる。このように、人間としてのあり方や生き方を模索しはじめる時期において、この資料の持つ問いかけは、生徒自身が自分のこととして、今までの自分の生き方に照らして、自らの姿を深く見つめるとともに、自分の人生を自ら切り開こうとする意欲を培ってくれるであろうと考えた。

この時期の3年生は進路決定の時期が迫り、自分の進路の目的や目標の実現に向けて焦り悩み、家庭での重圧等の環境におかれている。3年7組も決して例外ではない。勉強が手につかなかったり、受験に疑問や矛盾を抱いたり、目標をあきらめかけたり、迷ったりしているこの時期において、この資料の持つ問いかけをもとに、自分の進路の目的や目標の実現に向けて、受験を前向きに受け止め乗り越えようとする意欲を培いたいと考えた。

(3) 資料について

本資料は、「道は、すべての人の前にひらかれている」という言葉に続いて、「人間とは何か、人生をどう生きたらよいか」という問題を、生徒が具体的な生活場面で出会う様々な人生の課題と結びつけて問いかける。資料全体を通して、人間の生き方に関する真理や真実とは、いったいどのようなものかといった問いかけがなされている。

資料を単なる教訓として捉えるのではなく、生徒の日頃の具体的な場面での行動や態度と結びつけ、一人一人の生徒が自分の人生を、自信を持って力強く生きていこうとする意欲が培われるように取り扱っていききたい。そして、人生を力強く誠実に、自分の真実の中に生きていこうとする人すべてに、真のいきがいと喜びのある人生がひらかれていることを実感として理解させていききたい。

生徒一人一人が今までの自分の生き方に照らして、自らの姿を深く見つめるとともに、自分の人生を自ら切り開こうとする意欲を培えることができるよう、次の3点に配慮して取り扱っていききたい。

- ・ 生徒が日常の具体的な場面で出会う様々な問題と結びつけて取り扱う。
- ・ あくまでも生き方の指導であって、説論的な生徒指導にならないように取り扱う。
- ・ つらかった経験等を安易に語らせないように取り扱う。

なおこの資料は、範例的な資料として活用することにした。

4 指導の構想

事前に資料を読ませて、「自分が最も共感した文や気になった文とその感想」、「自分の人生で困難にぶつかった経験やそれを乗り越えるためにどのようなことを考えたか」、「勇気づけられた歌や本の一文」の3点について書かせ、生徒一人一人の考えを把握しておく。

導入では、「10年後の自分は、どんな大人になっているだろう。あるいは、どんな大人になりたいか。」と問いかけ、「年表」と「心情曲線」を掲示する。そして、本時の課題を「これからの生き方を考えよう。～生きていく上で、大切なことは何か～」と設定し、授業の方向性を示す。

展開の前半では、範読後に、「共感した部分の集計結果の発表」を行い学級の傾向を確認する。と同時に、選んだ文の感想を生徒に発表させることで、他者の多様な考えを知る場面としたい。

展開の後半では、「道は、すべての人の前にひらかれている」という言葉に続いて「人生をどう生きたらよいか」という問いかけを「困難な場面をどう乗り越えたら良いか」という問いかけに置き換え、生徒が具体的な生活場面で出会う様々な課題と結びつけて考えさせたいと思い、困難な場面や共通体験のあった文化祭合唱コンクールを取り上げることにした。そこで、この文化祭合唱コンクールに関する「心情曲線」を提示し、「学級の大変な時期を乗り越えてきたことから、学べることは何か。」と問いかけることにした。ここに時間をかけて、そのときの体験と心情をじっくりと振り返ることで、自らの姿を見つめさせたい。と同時に、このことを発表し合うことで、さらに他の人を理解し合うことができればと考えた。その上で、これから生きていく上でどんな考え方が大切だと思うかをテーマに、自分でこの文の続きを作らせたい。

終末では、「自作の文」を、何人かに発表させる。なお、時間があれば、「自分の人生で困難にぶつかった経験やそれを乗り越えるためにどのようなことを考えたか」を発表できる生徒がいれば発表させたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

今までの自分の生き方に照らして自らの姿を深く見つめるとともに、自分の人生を自ら切り開こうとする意欲を培う。

(2) 展開の概要

段階	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (7分)	1 「10年後の自分は、どんな大人になっているだろう、どんな大人になりたいか」を発表させる。 心情曲線を提示する。 2 本時の課題を設定する。	・偉い人 ・金持ち ・働いている ・イチローや松井のような人	1 投げかけ程度で、発言し出す生徒がいれば取り上げる。 想像させる程度 2 「考え方」に絞ってすすめていくことを告げる。
これからの自分の人生の生き方を考えよう。 一生きていく上で、大切なことは何ですかー			
展開前半 (13分)	3 資料を範読し、自分が最も共感をした文や気になった文の集計結果を発表する。 その感想を、生徒に発表させる。	◎納得 ・この文の通りだと思う ・良いことが書いてある ◎共鳴 ・自分に足りないものだから ・やる気になるから ・結構ためになるから ◎疑問視 ・そんなにうまくいかない ・道は開いているのかなあ	3 学級の傾向を確認する。 他者の多様な感じ方や考えを知る場面としたい。 疑問視している生徒がいれば、発表を促したい。
展開後半 (15分)	4 文化祭合唱コンクールに関する『心情曲線』を提示し、「困難な場面を乗り越えてきたことから学べる事(考え方)は何か」「それを乗り越えるために、あなたはどのようなことを考えましたか」と問いかけ、発表をさせる。	◎集団から学べる事 ・団結し、協力し合うこと ・まとまること ・力を出し合うこと ◎自分自身から学べる事 ・一人一人のやる気が大事 ・気合いだ～	4 各自の作文を想起させ、取り組み過程の体験や心情を振り返ることで、自らの姿を見つめさせたい。
(10分)	5 これから生きていく上で、どんな考え方が大切だと思うか。それをもとに、自分でこの文の続きを作らせる。	◎もとにした考え方 ・気持ちの持ち方次第 ・明るく生きていくこと ・意欲を持って取り組むこと ・あきらめないこと	5 できるだけ時間を取って考えさせたい。 自分が勇気づけられた歌や本があれば、参考にさせたい。
終末 (5分)	6 「自作の文」を発表させる。 なお、時間があれば生徒の経験談を発表できる生徒がいれば発表させたい。		6 他者の多様な考えや表現の仕方を知る場面としたい。 経験談では、無理な発言は求めない。

(3) 評価

- ・自分の生き方に照らして自らの姿を深く見つめ、自分の人生を自ら切り開こうとする考えを自分の言葉で表現できたか。

「道はいつもひらかれている」

3年 7組 番 氏名 ()

事前1 自分が最も共感した文や気になった文と、その感想を書いてください。

「文」

「感想」

(裏面の文に線を引いてください。)

事前2 今までの自分の人生で、『最もつらかったこと、悲しかったこと、くじけそうに

なったこと』などの困難にぶつかった経験があれば、それを乗り越えるためにどのようなことを考えましたか。

今日の課題 (考えていくこと)

1 これから生きていく上で、**どんな考え方が大切だと思えますか。それをもとに、自分でこの文の続きを作ってみよう。**

自分が大切だと思う考えた方

2 授業を終えての感想

道は、すべての人の前にひらかれている。
しかし、

「道はいつもひらかれている」

道は、すべての人お前の^のひらかれてる。
しかし、(人生を、どう生きたら良いかとの問いかけ)

年表
(10年後の自分)

簡単な心情曲線
(書き込む)

今日の課題 (考えていくこと)

「これからの自分の人生の生き方を考えよう。
—生きていく上で、大切なことはなんですか—

1 最も共感した文や気になった文

◎納得

- ・この文の通りだと思う
- ・良いことが書いてある

◎共鳴

- ・自分に足りないもの
- ・やる気になるから
- ・結構ためになるから

◎疑問視

- ・そんなにうまくいかない

2 文化祭合唱コンクールで、**困難な場面を乗り越えてきたことから、学べること**

合唱コンクールの
簡単な心情曲線

◎集団から学べる事

- ・ 団結し、協力し合うこと
- ・ まとまること
- ・ 力を出し合うこと

◎自分自身から学べる事

- ・ 一人一人のやる気が大事
- ・ 気合いだけ

(困難な場面を乗り越えるために、あなた自身はどのようなことを考えましたか。)

3 **これから生きていく上で、どんな考え方が大切だと思いますか。**

自分が大切だと思える考え方もとに、自分でこの文の続きを作ってみよう。

明るく笑顔で生きていくこと

素直な気持ち

思いやること

立ち止まらないこと

何をするにも気持ちの持ち方次第で違う

意欲を持って取り組む

しつかりと考えていく事

あきらめないこと

自分が大切だと思える考え方

「道はいつもひらかれている」

<p>(文) つかみ当てるその鍵は、自分の心の姿勢のなかにだけしかない。 (感想) なんか心に残った。</p>	<p>(文) 十度やってみよう。 (感想) 他の人と比べ、自分ができないことがあったら、他人よりも「努力」すればいいんだなあと思った。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) これからはそうしていきたい。</p>	<p>(文) しなければならぬことこそを、まず行う人になりたいものである。 (感想) 自分もしたい事だけしてしなければならぬことはやろうとしないので、この文のとおり、まず、行う人になろうと思った。</p>	<p>(文) 道は、平坦ではないのである。 (感想) 人生はつらいことや楽しいことがなくてはつまらないから。</p>	<p>(文) 十度やってみよう。 (感想) 毎回一度できないとあきらめて嫌になっていたけど、何度でもあきらめないで進んでいくと、最後には道は開けるんだと思った。</p>
<p>(文) たえず、知ろう、まなぼう、考えようとする意欲をもたなければ (感想) その通りだなあと思った。</p>	<p>(文) 自分にとってのいちばんやさしい道しか、あるこうとしない人もいる。 (感想) 人はやさしい道しか進まないのは、本当だなあと思った。</p>	<p>(文) 自分にとってのいちばんやさしい道しか、あるこうとしない人もいる。 (感想) 自分はやさしい道歩んでいるのではないか。</p>	<p>(文) たえず、知ろう、まなぼう、考えようとする意欲をもたなければ (感想) 大切な事だと思ふ。</p>	<p>(文) やりとげるまではけっしてあきらめないこと。 (感想) なんかチャレンジっぽくって良かった。頑張ろうという気になった。</p>	<p>(文) 十度やってみよう。 (感想) できない事でも、すぐあきらめずに、根気よくやってみようという気持ちになれる。</p>
<p>(文) 個性のない人生は、真実の人生ではない。 (感想) その通りだと思った。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) その通りだなあと思った。</p>	<p>(文) 閉ざされていると思う人の前には道は閉ざされている。 (感想) 道はいつも開かれていてあきらめなければ進めると感じた。</p>	<p>(文) つかみ当てるその鍵は、自分の心の姿勢のなかにだけしかない。 (感想) 道はいつでもひらかれているが、その道は自分の意識は自分の意識次第でどうにかなる。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) 僕もそう思う。</p>	<p>(文) (感想)</p>

<p>(文) 道はすべての人の前にひらかれている。 (感想) すばらしい言葉だと思った。良い道をすすんでいく。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) あきらめない気持ちが大切だと思う。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) やりとげるといふ気持ちがないと必ずどんな事も乗り越えていけないような気がする。</p>	<p>(文) やる気があるかないかだけである。 (感想) 納得するようなことが一杯書いてあった。</p>	<p>(文) 閉ざされていると思う人の前には道は閉ざされている。 (感想) この文は、本当だと思った。</p>	<p>(文) 閉ざされていると思う人の前には道は閉ざされている。 (感想) なるほどなあと思った。</p>
<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) 今は受験生なので、上の一部は自分に一番必要なことだと思うので、やりとげるまでは、けっしてあきらめないで頑張りたいと思った。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) 何かをやり遂げる前に、あきらめてしまうことが多いなあと思った。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) あきらめないで、やりとげることで、人生を味わう事ができるのだと思う。</p>	<p>(文) 十度やってみよう。 (感想) 人にはできて自分にはできない事は一杯あって悩んだりするけど、あきらめないで何度でもやってみようになればいいんだと思った。</p>	<p>(文) 閉ざされていると思う人の前には道は閉ざされている。 (感想) いつも自分自身そう考えてきたから。</p>	<p>(文) 道は、平坦ではないのである。 (感想) 道は平坦ではないが、人生という道は味わい深いこと。</p>
<p>(文) 全部の文 (感想) 自分にとってあたりまえの事しか書いていないので、特別な感情は持たない。</p>	<p>(文) やる気があるかないかだけである。 (感想) 私にはやる気がない。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) あきらめないことが一番大切だと思ったから。</p>	<p>(文) やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。 (感想) 何をするにも、けっしてあきらめないといふ気持ちを持つことで何事も前向きに向かっていくことができると思う。</p>	<p>(文) 閉ざされていると思う人の前には道は閉ざされている。 (感想) 自分もそういう考えをしていたから。</p>	

道はいつもひらかれている

道は、すべての人の前にひらかれている。

その人に、やる気があるかないかだけである。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、道がとざされていると思う人の前には道はとざされている。自分だめだと思ふ人はだめになつていく。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、生きがいとしあわせとを、つかみあてるその鍵は、自分の心の姿勢のなかにだけしかない

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、個性のない人生は、真実の人生ではない。たとえすぐれた人のまねをしても、まねをすることですつかみあてられる「自分の人生」というものは、この世にはないのである。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、人生を暗く生きようとする人には、明るい人生も暗くしが生きられない。

人生を明るく生きようとする人だけが、暗い人生さ

えも、明るく生きていくことができるのである。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、自分からあきらめしまうことは、もはや生きることはない。その人の前では道もとざされる。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、人が一度でやりとげられることが、自分には、一度でやりとげられないこともある。

一度でやりとげられないことは、十度やってみよう。十度やってもやりとげられないことは、百度やってみよう。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、やりとげるまでは、けっしてあきらめないこと。そしてそのやりとげようとする心をついて失わないこと。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、たえず、知ろう、まなぼう、考えよう、とする意欲をもたなければ、人はその自分の人生の道を、あるきすすむ力を失うであろう。知り、まなび、考えていくことが、自分の人生の道をあるいていくことだからである。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、人によっては、自分にとつてのいちばんやさしい道しか、あるこうとしない人もいる。だが人によっては、自分をそだてつつけていくために、いちばんむずかしい道のほうを、いっしょうけんめいにあゆみつつけている人もいる。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、したいことだけして、しなければならぬことは、なかなかやるうとしない人もいる。しなければならぬことこそを、まず行う人になりたぬものである。

道は、すべての人の前にひらかれている。

しかし、その人生はまたその別の一方では、人にその道を見失わせるほどの誘惑と失望とのくり返しにも、みちみちていることを忘れてはならない。道は、平坦ではないのである。それだからこそ、人生という道のあじわいは深いのである。

ふるやつななけ
古谷網武著「生きがいの探求―青春の書」

より